

數ノ投票ヲ取得セルハ重要ナル政治的結論ニシテ、芬蘭民ノ政治的機運ヲ示スモノナルガ、選舉ノ結果ハ必シモ右ヲ充分ニ反映シ居ラズ、舊政黨人ノ多數再選ハ、進歩的芬蘭ニ對スル舊政黨ノ猶強カナルヲ物語ルモノニシテ、芬蘭ヲ破滅ニ導キタル之等分子ニ對スル國民ノ闘争ハ今後ニ在リト論セルガ、二十六日、「ブラウダ」モ、「ヘルシンキ」發電トシテ、同様ノ趣旨ヲ論ジタルガ、特ニ選舉ガ自由ニ行ハレタルコトヲ強調セリ。

(3) 「パーシキヴィ」ヲ首班トスル芬蘭内閣ハ、九日、總辭職セルガ大統領「マンネルハイム」元帥ハ、同人ニ再組閣ヲ委囑スベキ旨報ゼラルル處、新内閣ガ總選舉ノ結果ニ基キ著シク左翼化スベキハ必然ト見ラル。

九、希臘

内閣更迭

二月中旬希臘政府ト「E.A.M」間ノ和平協定成立ニ依リ希臘國內ノ治安漸ク治マリタルヤニ見ラレタラガ、其ノ後モ内亂ノ餘燼ハ依然消ユズ、和平協定成立後、内務大臣ノ辭職問題ヲ繞ル「ブラスタス」内閣死解説、國內各政黨ノ共和採用ノ提唱モアリ、ソノ上和平協定ニ基キ解隊セラレタル「E.L.A.S」團員ノ騷擾モ各地ニ行ハレ、「E.A.M」ハ政府ノ之等分子ニ對スル斷歴ニ不満ヲ表明スル等ノ事件頻發セリ。政府ハ之ニ對處シ、兎モ角政變ノ危機ノ切抜ケ來リタルガ、四月上旬ニ至リ「ブラスタス」内閣(第二頁參照)ハ遂ニ總辭職シ、四月九日、「ベトロフ・ブルガス」提督ヲ主班トスル新内閣成立セリ。「ブラスタス」内閣總辭職直接ノ原因トナリタル事情ハ不明ナルモ、一應和平協定成立ト共ニ退陣セル「E.A.M」側ノ策動トモ視ラレザルニ非ズ、今後ノ發展注視セラレ。

十、英國

(一) 英自治領代表會議

四月四日ヨリ倫敦ニ於テ英國自治領相「クランボーン」司會ノ下ニ、濠洲「エヴラト」外相、新西蘭「フレイザ」首相、南阿「スマツ」首相、加奈陀「マーシー」高等事務官及印度行政參事會軍需長官「ムダリアル」參集シテ、自治領及印度代表會議開催セラレタリ。英政府筋ハ、會議ノ目的ニ關シ、「本會議ハ「ヤルタ」會談ノ内容説明ノ爲開催セラレタルモノニシテ、英國ハ本會議ニヨリ英自治領各代表ニ對シ、決議採決ヲ以テ共同政策樹立ヲ迫ル意向ナシ。又本會議ヲ以テ英本國及自治領各國ガ英帝國「プロック」ヲ形成シ、桑港會議ニ共同戰線ヲ張ランガ爲ノ準備過程ト見ル向キアルモ、斯ル見方ハ本會議ノ精神ト目的ヲ誤解スルモノナリ」ト説明セルガ、本會議ハ、米國ノ主催セル墨西哥會議(第三〇八頁參照)ト同様、桑港會議ニ備ヘテノ英帝國足並統一ノ爲ノ會議ナルコトハ、本會議出席者ノ大部分ガ桑港會議出席ノ代表ナルコトニ依ツテモ明瞭ナリ。

(二) 「ダンバートン・オークス」國際機構案ニ對シテハ、濠洲、加奈陀、新西蘭等モ、同案ガ、中小諸國ノ立場ヲ無視シ居レリト不満ヲ洩スト共ニ、英各自治領ハ夫々單獨ノ投票權ヲ希望スル旨述べ居リタルガ、九日ノ會議ニ於テハ、各代表共、戰後ノ平和ニ對スル大國ノ義務及責任ハ認メタルガ、濠洲及新西蘭各代表ハ、本案ニ依レバ安全保障理事會ノ權限ノミ大ナルニ付、國際法ニ關係アル諸紛争、例ヘバ國境問題等モ、先ヅ司法會議ニ付託シ、當事國ガ右會議ノ判決ヲ受諾セザル場合ニ之ヲ理事會ノ審議ニ付スベシトノ見解ヲ述べ、又加奈陀代表ハ本案ニ於テハ安全保障理事會ハ、總會ニ

對シ何等ノ責任モ負ヒ居ラズト非難シ居ル由ナリ。

(二) 政 情

(1) 四月初メ以來英國紙ハ、對獨戰ニ關シ、「ライン」ノ守リノ突破容易ナリシコト、交通機關ニ對スル連日ノ爆撃ガ獨軍ノ機動性ヲ喪失セシメタルコト、獨軍ノ組織的抵抗ハ一部ヲ除キテ少キコトヲ舉ゲテ、對獨戰終結ハ時ノ問題ト結論シ、又「イースター」休暇ニ當リ、英閣僚ハ突發事件ニ備ヘ足止ヲ命ゼラレタリトノ報道ヲナシ居リ、ソノ他路上公共防空隊ノ撤去、軍隊ニ對スル復員措置ニ關スル小冊子配布等ヲモ傳ヘ、一般ニ平和氣分漲リ居レル模様ナリ。

(2) 戰局ニ對スル樂觀的氣分ハ、漸次戰爭ノ結果生レタル聯立内閣ノ基礎ヲ弱メ、保守、労働兩黨協力ノ裏面ニ存スル軋機、表面化シツツアリ。

労働黨領袖中其ノ去就ヲ問題視セラレ居リタル「ベグリン」労働相(第三二五頁參照)ハ、七日、「リーツ」八日、「ニューカッスル」ニ於テ演說ヲ行ヒ、「戰前ニ於ケル保守黨外交政策ハ英國及全世界ヲ戰禍ニ投ジタリ」トシ、「來ルベキ總選舉ニ於テ、労働黨ハ獨自ノ政綱ヲ以テ闘フベシ」ト述べ、ソノ去就ヲ明カニシタル處、右ニ對シ「ブラッケン」情報相ハ、九日、倫敦ノ保守黨支部ニ於テ、「社會主義者ノ主張スル全體主義ハ英國ニハ容レラレザルベシ。戰後ハ主要産業國有案ノ導入等ニヨリ國內經濟生活ニ混亂ヲ來スガ如キ事ハ避ケ、國內ノ全生産力ヲ擧ゲテ家庭、家具、其ノ他ノ重要生産ニ振り向クベキニシテ、國有案ニハ保守黨ハ固リ國民モ反對ナルベシ」ト應酬シタルガ、労働黨副領袖「グリーンウッド」ハ、同夜直チニ右言明ヲ攻撃セリ。

十日、下院ニ於テ労働黨員「シンウエル」ハ、「情報相最近ノ活動ニ鑑ミ、同人ニ對スル給料ハ國費ヲ以テ支拂スルベキニ非ズ、保守黨對其支持拂フベシ」ト辛辣ナル質問ヲ爲セルガ、「チャーチル」首相ハ、「從前ヨリ言論自由ノ範圍ガ擴大セラレタルナリ」ト答ヘ、次ニ労働黨員「トソン」ハ、「政治戰線既ニ破レタルニ非ズヤ」ト述べタルニ對シ、首相ハ「政府部内ニ於テ常ニ平和ト信賴存ズルモ、政界ガ次第ニ政争ヘノ氣運ニ向ヒツツアルヲ以テ、外部ニ對シテハ種々ノ言明行ハルベシ、然レドモ政府ノ現實ノ政策ニ影響ヲ及スガ如キ言明ハ爲サルベキニ非ズ」ト應酬シタル趣ニシテ、英各紙ハ斯ル情勢繼續スルニ於テハ、意外ニ早く聯立内閣崩壊スベシトノ觀測ヲ揭ゲ居レリ。

十一、米 國

(一) 「ローズヴェルト」大統領ノ死

十二日午後、「ローズヴェルト」大統領ハ、「ジョージ」州ノ「ウオーム・スプリングス」ニテ、腦溢血ニテ突然死セセル旨、同日、白亜館ヨリ發表セラレタル。副大統領「トルーマン」(第二卷第一五四頁、第一八四頁及第五四七頁參照)ハ、米國憲法ニ從ヒ、同日午後、大統領職任宣誓ヲ行ヒタリ。尙副大統領ハ次回總選舉迄空席ノ儘トシ、只副大統領ノ兼任スル上院議長ハ上院ニ依テ選任セララルコトトナリ居レリ。

(二) 「ナイ」ノ決別演說

客秋落選セル上院孤立派ノ巨頭「シエラド・ナイ」(共和黨)ハ、三月下旬、上院ニ於テ二十年ニ亙リシ議員生活ニ決別ノ演說ヲ行ヒ、要旨次ノ如キ警告ヲ爲セリ。